

生氣充於中。而尙要一雨也。穎考叔、莊公之雨露也。莊公得穎考叔之雨露。而考敬之誠發於外。姜氏之蔽。亦豈得頑然而不除哉。於是乎母子之親全。而禽獸之譏免矣。蓋人之不幸。莫大乎蔽於物。目蔽不能見物。耳蔽不能聞音。口蔽不能辨味。心蔽則不能全人倫。而享天下之至樂。是故聖人說教。要使人去其蔽而歸其性。莊公蔽于叔段。不能愛其母。蔽于私慾。不能愛其弟。幸叔段去。鄭而母子之親得全。不幸不能除私慾。而不能享常棣之樂。可悲矣。詩云。兄弟鬩于牆。外禦其侮。兄弟之愛出於天理。不可以一旦之爭鬩而亡之。夫莊公與叔段非兄弟乎。若善以理開之。以情導之。莊公既愛其母矣。獨不能愛其弟乎。祭仲之徒。識慮淺薄。不知以常棣之樂感悟之。而徒以區々利害說之。曰。都城過百雉。國之害也。曰。無使滋蔓。蔓難圖也。此皆戰國策士之口吻。絕無有敦懇可愛者。莊公既蔽于私慾。重之以利害之說。宜矣。其猜忌之縱也。『嗚呼。去草木之蔽。而全其天性者。農夫之務也。去人主之慾。而全其天倫者。師傅之責也。』莊公私慾昏蔽。至不能全孝與友。是誰之罪耶。

論議 正確行文通暢 其起落處似東萊氏

入梅之日於雨窓下

吾醒廬主人漫批

### 勤王辭世百首とよみて

助教授

園

哲雄

田のべの落穂氏はもとは稲葉といひて、藩治の比城州淀のやんごとやき人ありけり。こたび勤王辭世百首の歌を集めつれば、いかゞとてなん、ねこされたりける。それ歌は、力をもいれずえて、天地を動かし、武きものゝ心の慰むとて、いとやんごと

なきものよぞありける。うが中にモ、月花を弄ぶあはれをのべ、戀路をたどる心ばへを、ものしたるさとは、さはとやらねど、つるぎをふみ、矢丸をけりても、ものどもせず、大君の邊にこそ死なめど、をたけびしつるころ、いとやんごどさかりけれ。さるを、こは亡國の音など、あげつらひひがむるは、全くいひかひなき、しりうごとなめり。そは、遠き國の文天祥、あるは方孝孺などの詩を、さだめしついでにや、いひけさんとは、したりけん。うもろもおのが身を、なきものにして、明治の御代を開き初めしければ、ろの潔きこと、雪を肩して、さきいつる梅の花の、春をえまたずして、風にちりまがどとし。あはれさとは、よのつねのことにて、いはんかたなく悲しきこと、の、あたらしきことにこそあなれ。こをよまん人、このいきざしをもて、いきざしとせば、たゞに世の亂に處するよすがとあるのみならず、けだし、よるづのことよあたりて、成らざるは、あらざらん。うれば、志をたて、國を興す基といひつべければ、編める人の心さへゆかしうて、一言をかくなむ。

## 五月十九日江津川のつどひによめる文

下山陸治

けふこゝに、我同級の友監督の師と共にうちつどひて、親睦會を開きぬ。若葉の綠をたたりて、木の間もりくる風もすすしく、まして、同じ人々のつどひあれば、江津川の水の心もいさぎよく、苦學れいぶかしさも、今ははや、一時にあらひるゝげる心地ぞすある。まかはあれど、豈た、この比の景色に、心をあぐさむるのみならずや。うれ、古